

令和3年3月8日（月曜日）

南三陸町東日本大震災対策特別委員会

東日本大震災対策特別委員会

---

令和3年3月8日（月曜日）

---

出席議員（1名） 議長 三浦 清人 君

---

出席委員（15名）

委員長	山内 昇一 君	
副委員長	後藤 伸太郎 君	
委員	須藤 清孝 君	倉橋 誠司 君
	佐藤 雄一 君	千葉 伸孝 君
	佐藤 正明 君	及川 幸子 君
	村岡 賢一 君	今野 雄紀 君
	高橋 兼次 君	星 喜美男 君
	菅原 辰雄 君	山内 孝樹 君
	後藤 清喜 君	

---

欠席委員（なし）

---

説明のため出席した者の職氏名

町長部局

企画課長	及川 明 君
企画課震災復興企画調整監	桑原 俊介 君
管財課長	阿部 彰 君
管財課技術主幹 兼財産管理係長	阿部 靖 君
管財課主幹 兼用地調整係長	千葉 雅明 君
建設課長	及川 幸弘 君
建設課技術参事 （漁港担当）	田中 剛 君

建設課上席主幹  
兼漁港係長

阿部 幸人 君

建設課土木建築係長

鹿野 裕也 君

建設課技術主査

三浦 孝 君

事務局職員出席者

事務局 長

男 澤 知 樹

主幹兼総務係長  
兼議事調査係長

小 野 寛 和

## 東日本大震災対策特別委員会の会議の概要

午前10時00分 開会

[現地調査]

休憩

---

午後 2時50分 再開

○委員長（山内昇一君） それでは、時間になったようですので、会議を再開いたします。

今日は、午前、午後とも委員の皆様はじめ担当の職員の皆様には、また県の土木それから地方振興事務所の先生方にも御指導いただき、御説明をいただきました。大変ありがとうございました。おかげさまで無事現場視察が終了いたしました。

震災復興事業の進捗等について、当局に聞きたいことがあれば、伺いたいことがあれば発言をお願いいたします。なお、質疑は本日現地視察をした現場のうち、町が事業主体となっている事業についてのみ行っていただきます。それではどうぞ。後藤委員。

○後藤伸太郎委員 それでは、少し振り返りながらというかお伺いしたいと思いますけれども、防潮堤に関しては、10年たってここまで来て、今から設計がどのという段階ではないのかなと思います。遅れが気になると、それはしっかり完遂していただくという一言に尽きるのかなと思うんですけれども、現時点で今日現地調査しましたけれども、今までなかったような新たな課題であるとか、問題点であるとか、そういったことがないのかどうか、一つお伺いしてみたいなと思います。

それから、これまで進めてきた事業以外にといいですか、これまで低地部の利用と高台団地の区画、空き区画を埋めていくということはずっと継続してやってはきましたけれども、一つ何というか、フェーズが、段階が変わっていくのかなと思うのが、高台団地かなと思います。今から空いているところをなかなか埋めていくという作業は、これまでと同じ取組をしていたのではかなわないのかなと思いますので、今日は戸倉団地を拝見しましたが、資料によれば何区画空いていますというのがありますけれども、件数で言えば柘沢、清水、志津川中央、志津川西の西、戸倉というところが多いのかなと思いますが、割合で見ると戸倉は空いているのがおよそ24%ぐらい空いているんですね。志津川西の西は37%ぐらい空いているわけですね。ですので、この辺の空いていない区画の団地もあるわけでありまして、どの辺に差があった

のかなというところが少しお聞かせいただければということと、今後そこをどうやって埋めていくのか、今までどおり随時募集と、公募しますというだけでいいのか、そこはまあ空けておくという1つの政策的判断もあり得るのかなと思いますが、どのように進めていくお考えなのか伺ってみたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（山内昇一君）　お願いします。技術参事。

○建設課技術参事（漁港担当）（田中　剛君）　建設課技術参事です。それでは、まず防潮堤の今後、新たな課題、問題等は発生しないかというような御質問でございました。これまで防潮堤工事の遅れの原因の1つは、やはりいわゆる地盤の基礎部分での当初の設計と実際の地盤状況との違いが大きな原因として挙げられます。したがって、いわゆる基礎構造の変更でありますとか、あるいは地盤改良工法の変更、これらに国との協議で時間を要したということが1つ大きな遅れの要因として挙げられます。それ以外には、新たに陸閘を追加するといったことが国との協議に時間を要した結果、工事の遅れにつながっておるということでございまして、今後は今日も現場御覧いただきました田の浦ですとか、あるいはばなな、これら現時点で遅れが生じている現場につきましても、今後はいわゆる基礎部分の工事が終わりますと、防潮堤本体の工事に取りかかってまいりますので、今後大きな変更はないものと考えております。

○委員長（山内昇一君）　お願いします。

○管財課長（阿部　彰君）　高台団地の空き状況を今後どのように進めていくのかという御質問でございますけれども、基本的に防集団地、高台団地につきましては意向調査を実施して、その地区に何区画を造るかということから始まって現在まで進めている状況でございます。

着工前、それから事業計画中、それから着工中、そういった幾度かの時点にまたがって随時関係者に意向調査等進めながら事業実施してまいりましたけれども、造成の期間が長期間にわたったということが1つの原因かとはありますけれども、どうしても当初その団地に予定した方々が待ちきれないといった形で他の場所に宅地のほうを建設したという例が実際のところあるかと考えております。

ただいま御指摘ございました柘沢団地、それから清水団地、それから中央団地、戸倉団地等、確かに空き区画がある状況ではございますが、志津川地区の団地につきましては、随時今までも募集等が随時ある状態でございます。新たな募集、申込み等が比較的に見られないといった団地につきましては、歌津地区、それから戸倉地区といった形がちょっと見受けられる形ではございます。一番戸倉団地、本日現地のほうを見ていただきましたが、戸倉団地につきましては、先ほど申したように意向が変わったという形の中で完成時期から当初の段階から20区

画、21区画ほど意向者が減ったという状況が大きい原因と考えております。

今後こういった方策という形でございますが、移住者の方々に、あとはUターン、Iターン、そういった形の方々にに対して積極的に区画の利用をしていただくというような御案内、それからいろんな広報、それから移住センター等通じて、広報のほうを積極的に進めていくといった形が取られるかなというふうには考えております。どうしても62区画の空きという形は大変大きいものということで当課としても捉えておりますので、今後とも積極的にそういった他所から移住して来られる方に対して積極的にアナウンスのほうを進めていければなというふうに考えております。

○委員長（山内昇一君） 後藤委員。

○後藤伸太郎委員 防潮堤につきましては、一番時間かかるところとか、発注も難しかったでしょうし、これから上物ができていくというところは予定どおりに遅れる、全く遅れないということはないと思いますが、予定どおりにこれまでよりは進めやすいのかなというお答えでした。これからのことを考えれば、そこを利用される漁業者の方とか地域の住民の皆さんがいるわけですので、造って終わりということではなくて、その方々が使いやすいようにということも期を見て、コンタクトを取っていくと、コミュニケーションを取っていくということは非常に大事なと思いますので、その中で使われていく中での不便であるとか、そういったことも解消していく必要があると思いますので、今は何とか来年度、再来年度ぐらいまでに終わらせるぞというところで一生懸命になっているという部分だと思いますが、これまでに整備が完了したところのそういった聞き取りであるとかも含めて、さらに続けていっていただきたいなというふうに思います。

防集団地につきましては、何が悪いというわけではないと思うんですね、空いているということが。もともとはもっと大きく計画していたわけで、そのとおり造っていたらもっと空いていたわけですから、それをこまめに調査しながらだんだん縮小していったと、現状の数字と合わせていったというところ、ほかの市町村も見るともっと空いていますので。ただ、何が悪いというわけではないですけども、今後何もしないというわけにはいかないだろうというふうに思いますので、政策的な判断も含めつつ、ただ募集していますよと、どうですかというだけじゃなくて、何か例えば移住定住を促すというようなお話がありましたから、仕事とセットにするとか、農地と一緒にするとか、いろいろなことが土地があるわけですから、活用する方法は今後考えていけるのかなと思いますので、管財課だけではなくて企画の部分を含めて進めていっていただきたいなというふうには思います。終わります。

○委員長（山内昇一君） 企画課長。

○企画課長（及川 明君） 防集団地の空き区画の関係につきましては、いろいろ過去にもいろんな周囲の居住者の関係もあって、アパートという政策的な部分が一旦途絶えてしまったと。その後何もしていないのかということでもなくて、現在のところは住宅取得補助金という形の中で移住者も含め、町内にいる住宅地を欲しがっている方々のために補助金を少しでも出して、定住させる施策は打ってきております。今後もメリハリをつけながら、また周囲の居住者との意見も踏まえながら、適当な施策を打っていかなければならないというふうに思っております。

○委員長（山内昇一君） ほかにございますか。及川委員。

○及川幸子委員 お伺いします。ただいま防集団地の件が出ております。私もここ柘沢団地、この表記には柘沢団地ですけれども、団地名はみねはた団地なんですけれども、この表記が柘沢団地になっていますので、ここ7件あるんですけれども、この団地は毎年1戸ずつ増えているんです、いいことなんですけれども、ただそこに行く道路、今日も現地バスの中から御覧になったと思われましてけれども、19号台風のときの爪痕がまたブルーシートが劣化して、路面が見える、そういうふうな状況ですけれども、今後県の通知の中であそこがまた災害に、急傾斜地指定区域になってあそこが崩れると、国道まで土が押し流されるというような、今度十何日か説明会あるんですけれども、そういう危険性が出てくると、やはりそこに行きたがらない、あそこが不安だから行きたがらないという住民の皆さんの要因になるので、今後町としてそれを回避するために別ルートで反対側にもう1本の道路が必要なのであるかと思いますけれども、そういうふうな計画、今後の計画をどのようにしているのか、19号の台風を踏まえて町はどのような考えでいるのかお伺いいたします。

○委員長（山内昇一君） 建設課長。

○建設課長（及川幸弘君） 柘沢団地の道路に関しまして、災害復旧のほうは今発注等手続しておるところでございまして、極力早めに復旧をしたいというふうに考えてございます。

それと、急傾斜地、土砂災害危険区域ですか、ということで柘沢団地等、ほかの団地もそうなんです、造成時点でそういった急傾斜地とか考えられる後ほど想定、指定されることが想定されるものについては極力避けてきた、避けて事業計画をつくってきたというのが実情でございます。結果として一部近隣に指定とかそういった部分もございまして、町としては県のほうと相談をさせていただいて、極力そういったものは回避をしてきたという実情がございまして。

それとあと、道路をもう1本というお話でございますが、これは従前より御説明をさせていただいているところではございますが、町のほうから何とか、これは枳沢団地に限らず、清水団地も同様でございますが、もう1本道路が欲しいと、何とか交付金事業でできないかということで、これは再三にわたり復興庁さんのほうと協議をさせていただきましたが、結果としてお認めいただけなかったという実情がございます。今でも個人的にはもう1本道路あるといいんだけどなというふうには考えてございますが、なかなか充てられる財源等々、ちょっと見当たらないというのが実情でございます。

○委員長（山内昇一君） 及川委員。

○及川幸子委員 以前からこの道路の件については、同僚議員の一般質問などもありましたけれども、今状況が先ほど、今月の県の指定区域になって、土砂が災害があるところのぐらまでシミュレーション出ているんです。そういう危険性があるところを、今1本しかないところを使用しているんです。現実的に。ですから、欲しいことが分かるんだと言っていますけれども、それは同僚議員も皆分かっております。多分17日だと思えるんですけども、県の説明会、そのシミュレーション、崩れてきたらここまで行きますというシミュレーションも出ているんです。ですから、緊急性があるから県と協議して何とか前向きに検討してもらいたいというのが私の希望ですので、是非その辺を県との協議早めていただいて、実施できるように整備できるような方法でやってもらいたいと思います。

○委員長（山内昇一君） 建設課長。

○建設課長（及川幸弘君） その件に関しましては、先ほども申し上げましたが、再三にわたり協議をさせていただいているところですが、今のところそれに該当できる事業がちょっとなかなか見当たらないというのが実情でございます。

○委員長（山内昇一君） よろしいですか、ほかに。星委員。

○星 喜美男委員 漁集工事からちょっと伺います。町道寺浜線の整備だと思うんですけども、私が見る限りではあと舗装を残すのみかなという感じで、何か今月末頃に舗装することですが、これを見ますと5月までとなっていてどの辺が残っているということでしょうか。

○委員長（山内昇一君） 企画調整監。

○建設課技術参事（漁港担当）（田中 剛君） 御指摘の集落道整備につきましては、当初は3か所の待避所整備を考えておったところなんですけど、その後隣接地権者の御協力が得られる見込みとなったものですから、全線について改良していくという計画に変更しています。それに



基づきまして施工も来年度に一部繰越しが必要となったものでございます。（「分かりました」の声あり）

○委員長（山内昇一君） すみません、建設技術参事さんのお名前間違えました、すみません。星委員、よろしいですか。ほかに。千葉委員。

○千葉伸孝委員 今日御苦労さまでした。何点かちょっと気になったことを簡単にでいいですので、お答えください。防集団地の空き区画、今企画課長が話していたとおり、従来はアパート建設に関してはそこに住んでいる住民のほうから反発があって、まだ早いんじゃないかとか、いろんな問題があるんじゃないかということがあったんですけれども、ある程度被災住民の住宅確保が終わって、空き区画62区画ですか、そして戸倉地区も20区画とまだまだ空いているので、ある時期を見てそういったアパート建設、加工場での労働者としての確保のアパート建設、その辺も緩和される、もうそろそろ時期なんじゃないかと思うので、その辺お聞きします。

あとは、今日大体歌津地区防潮堤、あと漁港整備見てきましたけれども、技術参事の話ですと、基本的にはあと1年、2年とかかかっていくという状況の中で、その中で自然災害が起きた場合の高潮とか、あと低気圧による護岸関係の高波ですね、そういったものの対策は大丈夫なんでしょうか。その辺お聞きします。

あとは、南町地区の、ちょっとど忘れしましたけれども、しおさい通り、これに関してなんですけれども、町の土地が赤線で引いてありますけれども、そのほかの土地は個人名義の土地だと思うんですが、そのしおさい通りの整備というのはこの大規模にできている公園までつながって、ここで何かイベントしたりとか、そういったことだと思うんですけれども、一般の人たちの土地を確保している人たちの建設予定ということも前にも聞いたことがあるんですが、その辺の町が目標としている土地利用に関して、この土地を持っている方はこういったこの土地の活用を考えているのか、その辺分かる範囲でいいですので、お願いします。

○委員長（山内昇一君） 企画課長。

○企画課長（及川 明君） 最初に防集団地の空き区画の関係なんですけど、年も明けましたので、おとしですか、柘沢団地と戸倉団地、みねはた団地の方々と空き区画の利用について、意見交換をさせていただきました。この件については前にも議会でも御説明をいたしましたけど、両地区のニュアンスが微妙に住民の方々違いまして、柘沢地区の方々には休みの日になると空き区画を見に来ている御家族の方が結構いるということで自分たちで呼び込むためののり面の除草とか、あとは花を植えたりとか、そういった形で環境美化を図りながら整えているの

で、その件はもう少し時間が欲しいというお話でしたので、ずっと様子をうかがっています。戸倉については、どうしても町内の方々の定住という観点がなかなか恐らく見えないのかなという部分がありまして、移住者あるいはアパートも含めてそういった方々が中心になるということで、少しコミュニティ形成の問題があるので、そういった観点で待ってほしいといったようなお話をされておりますので、適当な時期がいつなのかという部分については、特に方針を固める前に改めて時期を見て意見交換をしながら、意向を確認して丁寧に進めていければなどというふうに思っております。

○委員長（山内昇一君） 技術参事。

○建設課技術参事（漁港担当）（田中 剛君） 通常の単年度工事の場合もそうです、また今回の防潮堤工事のように複数年度にわたります工事の場合も、例えば台風ですとかあるいは低気圧等々が近づいてくるという予報を確認いたしました折には、それなりのといたしますか、十分な対応、対策を講じて備えていると。再度災害を受けないように、備えているというところが実情でございます。

不幸にして昨年度の台風襲来の折には、予期せぬ出水により一部工事現場で重機が流されるといったようなこともございましたが、今後は十分注意してそのようなことが二度と起こらないように工事を進めてまいりたいと考えております。

○委員長（山内昇一君） 企画調整監。

○企画課震災復興企画調整監（桑原俊介君） しおさい通りの赤線以外の部分の地権者の方たちがどういう使い方をされるかということでもよろしいですかね。地権者の方かなりたくさんおられるんですけども、今空いている、空地になっている部分につきまして去年復興庁のモデル調査事業というので、株式会社エスカさんがいろいろ調査をされているんですけども、そのときにお聞きになっているお話を聞くと、なかなかさんさん商店街のほうでもう既に店舗を構えている方とかは、こっちのほうまでちょっと今手が回らない状況とか、それからあと御高齢の方もおられるので、なかなか今から自分で何かを造ってやるというのは難しいかなということで、何か明確に用途が決まっている方というのはなかなかおられなかったかなと思います。

○委員長（山内昇一君） 千葉委員。

○千葉伸孝委員 最後のほうから言えば、しおさい通りなんですけれども、しおさい通りの意味というのは以前南三陸町、志津川のほうにあったときにやっぱり道路の両脇の商店で来場者を迎えるという感覚のしおさい通りのにぎわいだったと思うんですが、今の企画調整監の話ですと、やっぱりなかなかその辺は今現在さんさん商店街で出だしている方もいれば、町内を出し

ている方もいると、そういった中でやっぱり2店舗持つことの大変さがありますので、その辺をいかにこのしおさい通りのにぎわいをつくっていくかということ、本当大変だと思うんですよ。3年、4年でやるといっても果たしてここのにぎわいというのは、町の土地をうまく何かの形で利用する方法もあり得るかなと、そこで子供たちが喜ぶような何かをすとか、そういった提案なんかも会議も何回か開かれておりますので、その中でいろんな提案が出ていると思うので、町の土地をうまく利用してにぎわいを創造する、そういった考えも1つあるのかなと思いますので、その辺十分に考えてお願いしたいと思います。

あと、企画課長の話ですけれども、やっぱり地区地区でコミュニティの再生に向けてまだ道半ばということで、まだまだいろんな問題があるというふうな話の内容だと思います。そして、地区地区の住民も努力して地域の中で、柁沢のほうは来てもらうような環境をつくるとか本当に大々的な動きだと思うので、そうするとまだまだ様子を見ていかないといけないのかなということを今課長の説明で感じました。ただ、いつまでも空き区画というわけにはいかないので、町内で成功している方と町外以外でやっぱりいろんな水産加工とか事業をしている方で、外国人労働者というのはこれからの労働力の南三陸町にとっても大きな力だと思うので、それを利用しない手は私はないと思いますので、その辺も近い将来そういった方向にも考えていってもいいのかなと思いますので、その辺は私の考えですので、あとは町と水産会社との関係の中でその辺うまくマッチングし合って、利活用してほしいと思います。

あと、建設課技術参事の話ですけれども、これまで完成した部分が自然災害によって何割かがまたもう1回やり直しというようなこともないわけではないと思うんですよ。だから、ある程度形をつくりながら行ったほうが、そういった災害に対しての対策になるのかなと思うんです。広い範囲を1割ずつやっていくんじゃなくて、ある程度の区画をぼんと、ある程度できたらば今度次の企画、やり方がいろいろあると思うんですが、私は建設屋じゃないので分からないので、そういった被害を新たな経費がかからないように、そういった自然災害被害に対応するような形を、幾ら注意していても自然災害ですので、その辺は発生します。ですから、できるだけ建設した部分が被害が少しであってほしいというようなそういった考えをもちまして、こういった質問をしました。注意して管理していくというような建設課技術参事の話を書きましたので、その辺ひとつよろしく管理をお願いします。終わります。

○委員長（山内昇一君） ほかに。今野委員。

○今野雄紀委員 何点か伺いたいと思います。まず、残土の活用について伺いたいと思います。

先ほど現地調査した松原防潮堤なんですけれども、私後で担当の人に聞いたら、何か先ほど

私たち歩いていた辺りは、上のほうは佐沼というかオカのほうから買ってきたやつをしいて使っているというそういう説明でした。私は、高野会館近くにあったような残土を、土だから一緒ではないかと思って使っていたのかと思って聞いたら、実はそうではなかったということで、それで町内から出た残土の活用というか、当町で2か所に何か集めるという話でしたが、これからでもできるのか、例えば危険地域の保全とか台風被害の工事での流用とかいろいろあると思うんですけれども、そういったことができるのか、まず第1点伺いたいと思います。

2点目は、しおさい通りについて伺いたいと思います。この計画の小さい目標として、町民が潤える空間の再構築というそういう目標を立てたようではございますけれども、そこで伺いたいのは、町民が潤えるの潤えるは、心の面なのか経済面、両方捉えられるんでしょうけれども、そここのところの確認をお願いしたいと思います。例えばまあ両面のスタンスが必要なんだとは思いますが、そここのところの確認を第1点でお願いしたいと思います。

あとは、4回検討会が開かれたということではございますけれども、そういった検討会の議事録はお願いすれば開示できるのか、その確認。

あと、もう1点は先ほどの委員も質問したんですけれども、埋まっている企画の中に商店街にお店を構えている方たちもいるということなんですけれども、そういったところで確認したいのは、換地とかする際に店舗を前提とした換地ではなかったのか、そういうところの確認をお願いしたいと思います。

○委員長（山内昇一君） 建設課長。

○建設課長（及川幸弘君） 残土の関係、今日の防潮堤のほうで買い取り等ということでお話ございました。これは構造物によって使える土の質というのが限定されてございます。その関係もございまして、あと今町内で確かに使おうと思って取っておいたんですけども使わない残土があるわけではございますが、やはり費用対効果と申し上げたらよろしいんでしょうか、買ったほうが安いのか、あとは今ある土砂を運搬して使ったほうが安いのか、あとタイミング的な問題ですね、時期的なものが合うのかというような問題がございまして、今回それがマッチしなかったということで、県のほうでは一部購入土を使ったというふうに理解をしております。

それと、今確かに残土のほう2か所に集約する予定としてございますが、今後そのまま災害時等々活用できるものがあれば、当然ながら利活用していくというふうに考えてございます。

○委員長（山内昇一君） 企画調整監。

○企画課震災復興企画調整監（桑原俊介君） しおさい通りの関係です。小目標として町民が潤

える空間の再構築、こちら計画を立てる段階でイメージしているのは、心の面の潤えるをイメージして目標を立ててございます。やはり今町内でなかなか町民の方たちが飲食店であったりとか、様々なイタリアンだったりとか、例えばですね、そういったのが余り今ない状況ですので、そういった町民の人たちが満足というか、いろいろなものに触れるような、心が潤えるようなそんな空間になればいいなということで、そのような目標を立てさせていただいております。

それから、4回の検討会の議事録なんですけれども、すみません、こちらちょっと確認させていただきたいと思います。すみません、換地については私はちょっと承知しておりません。

○委員長（山内昇一君）　ここでちょっと休憩します。

午後　3時26分　休憩

---

午後　3時27分　再開

○委員長（山内昇一君）　それでは、再開いたします。

今野委員。

○今野雄紀委員　残土の件に関しては、活用方法なければそのままになっているということか、それとも再度積極的に活用していくという、そういう気持ちがあるのかどうかだけ確認させていただきます。

あと、しおさい通りに関しては、先ほど調整監の説明ですと心の面ということを中心しているということであつたんですけども、やはり両面のスタンスが必要ではないかと、私そういう思いがするんですが、そこで例えば心の面でしたら、この場でいいのかどうか分からないんですけども、私以前は再三言っていたタコの滑り台とかでアートの何というんですか、町民の方たちが安らげるというか、子供たちが海の見えるところで来れば、荒島のこれもいいんですけども、そういったことが考えられると思います。

あと、もう1点はやはり町民の方たちが潤えるためには、やはりにぎわいということもあって、経済的な活動というかそういった面も重視する必要があると思うんですけども、そこで簡単に雨風しのげるような空間をつくっていただいて、簡単に今思い浮かんだだけでもファーマーズマーケットとか、フィッシャーマンズマーケット、あとはマルシェ、軽トラ市、フードトラックなどの活用みたいなものも検討していく必要があると思うんですが、何らかの市のようなものを現在の商店街ですと、どちらかという町民の方たちが利用していると、これからかもしれないんですけども、どうしても町外の方たち視線といたらおかしいですけど

も、そういったまちづくりになっている関係で、45号線を挟んでやはり本来の町民の方たちが使える空間というのを目指す必要があると思うんですが、そのところを伺いたいと思います。

あと、議事録に関しては後日ということで。

あと、埋まっている空間というんですけれども、いつまでに建物を建てるというそういう決まりがなかったということで分かったんですけれども、ただそうすると空いたままになるので、その土地を持ち主が第三者なりなんなりに活用してもらい、貸せるような決まりになっているのか、それとも貸してはだめだという決まりになっているのか、その点だけ確認させていただきます。

○委員長（山内昇一君） 建設課長。

○建設課長（及川幸弘君） 残土の積極的な活用というお話でございますが、今現段階で活用するすべがちょっとないということで、2か所に集約をするということでございます。ただ、今後におきまして場所的なもの、あとは土の質、それとあと費用対効果ということでマッチングすれば、積極的に活用してまいりたいというふうに考えてございます。

○委員長（山内昇一君） 企画調整監。

○企画課震災復興企画調整監（桑原俊介君） しおさい通りの今委員から御提案のあったような意見というのは、4回の検討会の中で結構町民の方主体の会議体になっておりますけれども、御意見いただいています。例えばキッチンカーであったりとか、それから出店という意味でいきなりきっちり建てる、本設するというのはなかなか難しいので、そういったものにチャレンジできるような、そういった小規模な店舗みたいなのを作ってはどうかとか、そういったものとか、あとはライトを使った夜の仕掛けだとか、そういったものが様々皆さんから御意見をいただいています。それが3月26までの契約になってございますけれども、委託している業者のほうから結果が上がってくることに、まとめたものが上がってくることになっていますので、そういったものを見ながら我々のほうで再度検討していきたいなというふうに思っております。

○委員長（山内昇一君） 企画課長。

○企画課長（及川 明君） ちょっと漏れた部分がありますので、補足させていただきますが、質問の中で潤えるの部分ですね、どちらかという心にも主眼を当然置きますが、当然経済的なものの中には入ってくる計画にはなろうかと思いますが、主にはどうしてもさっき委員が御指摘あったとおり、さんさん商店街の今の現状を見ますと、町民の方々が観光客に圧倒されて入

りづらいということもありますので、そういったことに配慮する、町民が潤えるといったような空間づくりに向けて進めているところでございます。

それと、アートの話につきましては、これは行政として回遊性の中でアートという1つの候補として、1つは出ていますが、ある程度回遊性を高めるのに本当に必要なものかどうか検証しながら検討していきたいというふうに思っています。

○委員長（山内昇一君） 管財課長。

○管財課長（阿部 彰君） 個人が所有している土地に関しての第三者への賃貸とか譲渡とかそういうものに関しては制限はございません。

○委員長（山内昇一君） 今野委員、よろしいですか。（「はい」の声あり）ほかに。及川委員。

○及川幸子委員 今しおさい通りの件が出ました。坪単価団地の分は先ほど現地で聞きましたけれども、もしこの中で今売り買いができるという話なんですけれども、大体のここが何ぼでなくて、大体平米でもいいです、坪単価でもいいです、幾らぐらいということが分かっている範囲で大体でいいですので、目安として低い場合でなく、低いとあれだから高い、ここでの大体の額でお伺いします。

○委員長（山内昇一君） 管財課長。

○管財課長（阿部 彰君） 市街地の区画整理事業区域内の町有地等の売買等に関しましては、基本的にはその売買契約時点での土地区画の評価、鑑定を行いまして売買するといった形になっておりますので、今現在どこがどの辺りがどのくらいの単価ということではお示しできないという形で御理解願いたいと思います。

○委員長（山内昇一君） ほかに質疑はございませんか。

ないようでありますので、以上で震災復興事業の進捗状況についての質疑を終わらせていただきます。

そのほか委員会から特別委員会について御意見があれば伺います。ないですか。

ほかになければ、以上で本日の会議を終了したいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（山内昇一君） では、副委員長、お願いします。後藤副委員長。

○副委員長（後藤伸太郎君） 震災から10年という時期で有意義な調査ができたのかなと思います。復興事業最終盤という状況で、委員会の今後という話もそろそろ出てくるのかなというふうに思いますが、ハード面、ソフト面両方で復興が完了するまでしっかりと活動していくとい

うことが大事かなと思いますので、今後とも御協力をよろしくお願いいたしますと思います。

本日は大変お疲れさまでした。

○委員長（山内昇一君） 本日の会議を終了したいと思います。ありがとうございました。

午後3時36分 閉会